



2

【ひろばの風】

「福祉学部」であることの意味
一糸賀一雄による福祉の思想に学ぶ
人間健康福祉学部 下田 正

日本語スピーチコンテストin愛媛

愛媛県留学生等交流推進会議 企画・運営：愛媛大学国際連携推進
大学コンソーシアムえひめ国際交流支援部会



3

【Campus News】

留学生日本語スピーチコンテストin愛媛
2014で本学の留学生が「南海放送賞」を受賞
平成26年度 保健講話を開催
聖カタリナ大学剣道部女子が
中四国学生剣道新人戦で準優勝
平成26年度学内クリスマスを開催 ほか

4

【ESSAY】

「ほどほどの幸」の探究
人間健康福祉学部 稲田 俊治



5

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部
森岡 陽介ゼミ



カタリナ ひろば

Vol.27 No.2
2015.3

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



5

【クラブ紹介】

ハンドボール部
部長 社会福祉学科3年
山口 良平さん



6

【就職活動レポート】

田中 里枝さん
社会福祉学科 社会福祉専攻
児玉 翔さん
社会福祉学科 介護福祉専攻
中矢 沙織さん
健康福祉マネジメント学科 福祉マネジメント専攻

7

【就職活動レポート】

村井 一平さん
健康福祉マネジメント学科 健康スポーツマネジメント専攻
石川 知里さん
人間社会学科
野元 瑠菜さん
保育学科



8

【教員著書紹介】

ソーシャルワーク実習プログラミングワークブック
～実習先-養成校-実習生が協働するメリット～
関西学院大学実践教育研究会 編 編者代表 高杉 公人(聖カタリナ大学講師
全編編集及び執筆担当部分：第3章、第4章、第6章)；(株)みらい、2014年
法学・憲法への招待
山本 克司(聖カタリナ大学教授 執筆担当部分：第14
章「信教の自由」・第18章「生存権」)；敬文堂、2014年
クリスマス募金のご報告



「福祉学部」であることの意味 — 糸賀一雄による福祉の思想に学ぶ —

人間健康福祉学部 下田 正

1988 (昭和63) 年、聖カタリナ大学は「社会福祉学部」社会福祉学科の単科女子大学として開学した。入学定員100名の小さな大学の誕生である。当時は地元の愛媛県をはじめ中四国や九州の近県からの入学者も多く1994 (平成6) 年には定員を160名とした。その後、近県にも福祉系大学が續々と設置されたこともあり、2004 (平成16) 年には男女共学に踏み切り福祉経営学科を増設した。更にその4年後の2008 (平成20) 年にはその福祉経営学科を福祉、健康、スポーツ等の事業経営を軸とした健康福祉マネジメント学科へと改組し、新学部名を「人間健康福祉学部」とした。

「社会福祉」から「人間健康福祉」への学部改組は、当然のことながら、学部自体の「福祉離れ」を意図したものではない。当時学部長の任にあった私は新福祉学部の設置理念を「より総合的で、より積極的な福祉を実現すること」に求めた。従来の福祉学部の実態的な福祉概念の枠組みを超え、『健康の概念も内包する現代の福祉理念、ウェルビーイング (人権の尊重と自己実現) に立脚した、すべての人を対象とする、より総合的で、より積極的な福祉社会を切り拓きたいという願いを込めて人間健康福祉学部とした』(拙著「新しい福祉社会を拓く」『大学時評』所収 日本私大連盟 2008) ののである。

人間健康福祉学部では健康やスポーツ系の先生方が新たに加わったことで、スポーツ活動と障害のある子どもの健康状態、離島での「健康体操教室」の地域住民の暮らしへの影響、都市部のサロン活動がもたらす介護予防への効果など、従来の福祉学部の枠組みの中では見られなかった「より総合的で、より積極的な福祉の実現」に向けた教育研究も行われるようになった。このように「福祉学部」での教育研究の範囲や内容は日々変化していくものであるが、そのベースとなる「福祉」なるものの本質は今までもそしてこれからも基本的には変わらないものと考えている。

「福祉の思想」(NHKブックス 1968) という本がある。知的障害児、障害福祉、あるいは社会福祉の父とも呼ばれる糸賀一雄氏の著書である。「わが国の現実の社会に生起するさまざまな不幸にたいして、深い関心をいだかざるを得ない」から始まるこの本は、当時大学で「福祉」を学んでいた私にそれまで思ってもみなかった大切なものを教えてくれた。「障害のある子どもたちをその性状や能

力の一面を取り出して価値の顛倒を説いても実ははじまらない」「天使と見ようが、仏さまと見ようが、天才と見ようが、このひとたちの価値が生まれてくるのではない」「このひとたちが、じつは私たちと少しもかわらない存在であって、その生命の尊厳と自由な自己実現を願っており、生まれてきた生き甲斐を求めていることを友愛的に共感して、それが本当の社会の常識となることへの道行が「福祉」の内容となるのである」

また、糸賀氏の講話集「愛と共感の教育」(永杉他編 柏樹社 1972) では、次のような教育観が示されている。知的障害や重症心身障害と呼ばれる子どもも私たちが「人間として生まれ人間になろうとするみちゆき」を歩んでいる。「同じ道を歩んで人間になろうとしている」。私たちは、この子たちがそのつまずきの中でそのつまずきを栄養に立ちあがろうと自前で努力している姿をみて、本当に光り輝いていると思う。そして、この子たちももっと光り輝いていくための仕事が、この子たちのつまずきに共感しながらどのように手を貸すことができるかを考える仕事が、私たちの教育であると説いている。更に、「この子らに世の光を」の気持ちもあるが、むしろ「この子らを世の光に」育てあげていく気持ち、いやこの子たちが実は光そのものだと認識しながら、人間になっていくみちゆきを一緒に育ちあってゆきたい、と述べられている。

私たちの日常生活を支配している価値はお金であったり、社会的地位であったり、家柄であったり、容姿であったり、能力であったりする。人との比較において成り立つ相対的な価値である。しかし、糸賀氏が指摘するように、すべての人はかけがえのない生命と自己実現を願い生き甲斐を求める存在であり、その存在自体に友愛的に共感し共に生きていく実践が「福祉」であり「教育」であるとするなら、その実践は人間存在自体に価値と意義を見出す新しい価値を創造する営みに他ならない。そういう意味で、本学の「福祉学部」は、今までもそうであったように、日常生活を支配する相対的な価値観を超えるべく、これからも常に「すべての人たちの尊厳と自己実現」を志向する学部であり続けることが求められるのではないか。このことは、「Charity for Your Neighbours」を生活信条とした聖女カタリナを守護者と仰ぐ本学にとってのアイデンティに深く関わることでもある。

留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2014で 本学の留学生在が『南海放送賞』を受賞

11月2日(日)、愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第11回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2014」が南海放送本町会館で開催されました。



このコンテストは2004年から開催されており、今回は県内の大学・短大等に留学する8カ国30人の留学生在が参加しました。本学からは3名の留学生在が「日本人とお土産」、「日本はキャラクターの国」、「Back to the 昭和」をテーマに、日頃から学んでいる日本語で身振り手振りを交えてスピーチを行いました。

また、本学学生で韓国出身の人間健康福祉学部3年 巖 筵景(オム・ヨンギョン)さんが、『南海放送賞』を受賞しました。巖 筵景さんは、日本に来てわずか半年での受賞です。おめでとうございます。

平成26年度 保健講話を開催

11月27日(木)の保健講話に、今年度は講師として四国厚生支局麻薬取締部 主任情報官付専門官 廣中征治氏をお招きし、薬物乱用防止について講話がありました。

近年、危険ドラッグ等を乱用した後、意識障害などの重大な健康被害を発症させ、交通事故による甚大な死傷事件が全国で多発しており、危険ドラッグの乱用対策が喫緊の課題となっているところです。

本学では学生の薬物に関する知識を深め、自主的な薬物乱用防止の推進を目的として開催したものです。

なお、この大学全体での薬物への取り組みに関してマスコミ6社の取材を受けました。

ロープジャンプ大会 (みんなでジャンプinカタリナ)

12月2日(火)に保育学科学生、人間健康福祉学部学生、教職員が参加するロープジャンプ大会(みんなでジャンプinカタリナ)が開催されました。

ロープジャンプとは、10mのロープを跳ぶ大縄跳びで、「跳んだ回数×跳んだ人数」がポイントになるチームスポーツです。

このロープジャンプ大会は、短大・大学の学生の親睦と教職員との交流を深めることを目的として、保育学科の学生が企画運営・進行等を行い、開催される恒例イベントです。



当日は、学生と教職員約170名が参加し、12チームに分かれて、競技が行われました。

チームによっては、女子高生や幼稚

園児等にコスプレしてジャンプを行い、会場全体を盛り上げていました。また、今年度は、留学生チーム(台湾:静修女子高級中学出身の学生)も参加し、猛練習の成果もあり、初参加にして好成績をおさめることが出来ました。

参加者全員がイベントを楽しみ、学生と教職員の親睦が深まるイベント内容でした。

聖カタリナ大学剣道部女子が 中四国学生剣道新人戦で準優勝

12月7日(日)第34回中四国学生剣道新人戦が広島県立総合体育館・武道場で行われ、本学の女子チーム(葛山亜加里さん、福本愛子さん、菅優樹さんと編成)が準優勝しました。



平成26年度学内クリスマスを開催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、12月19日(金)に学内クリスマスを開催しました。最初に聖カタリナホールにてホビノ・サンミゲル学長の司式によるクリスマスミサが行われ厳粛な中、祈りが捧げられました。



ミサ終了後、聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の園児による生誕を祝う踊りの発表と学長賞の授与が行われました。

その後、会場を体育館に移して、学友会主催のクリスマス会が開催され、各サークルの発表や豪華賞品が当たる恒例のお楽しみ抽選会があり、大盛況の内に終了いたしました。

平成26年度学長賞を授与

スポーツ活動・ボランティア活動・文化活動で活躍した学生及び団体に対する学長賞の授与が、学内クリスマスにおいて行われました。

今年の受賞者は以下の皆さんです。(敬称略)

[スポーツ表彰]

剣道部(男子)、剣道部(女子)(団体表彰)

[文化活動表彰]

大学祭実行委員会(団体表彰)

巖 筵景(大3)(個人表彰)、曹 仁慧(大4)(個人表彰)

デイサービスコンビベンシアを開催

日頃からお世話になっている聖マルチンの家の利用者をお招きし、デイサービスコンビベンシアを学生主体で12月22日(月)に開催しました。

コンビベンシアは約10年前に始まりましたが、一時中断していました。

今回は学生たちが、介護福祉実習や普段の演習授業での協力へのお礼にと、内容の企画から司会・レクレーションまで自分たちで主体的に取り組み開催しました。

※コンビベンシアとは・・・スペイン語:共生、共存



「ほどほどの幸」の探究

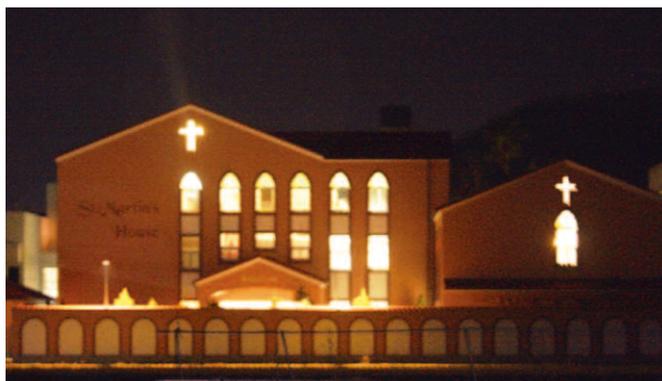
人間健康福祉学部 稲田 俊治

聖カタリナ大学の教員として仕事をできるようになってもうすぐ1年になります。私学での勤務は初めてでしたのでとまどうところも多々ありましたが、先生方・職員の方に支えられてあっという間に過ぎてしまいました。若い(年齢or気持)教職員の方々や学生たちと関われる喜びは何物にも代えがたく、再社会化、若返り?の機会をいただいた本大学に感謝しています。

当面は単身赴任で、33年ぶりの気楽な生活をしています。とは言っても、所属が健康スポーツ学科ということもあって、健康や運動不足には人一倍気を使っています。高知ではテニス、ウォーキングを各週4回程度やっていたのですが、こちらに来てからテニスは月に3~4回に減ってしまい、その代わりにウォーキングに重点を置いています。大学では、夕方か合間を見て週3回程度、1回ほぼ1時間で行っています。30分間どこでも好きな方向へ向かい、少し回り道をして帰る方法です。夜も暇をしているので、週に2回ぐらいは夜間ウォーキングもしますが、競技的なスポーツと異なり、歩きながら思考もでき、周辺のこともわかる一石三鳥で重宝しています。

カタリナホールの前あたりでその日の方向を決めます。右であれば海岸へ、まっすぐは街並みへ、左は畑や丘陵地へ。この場所はいろいろな風景や自然を楽しめるのでとても気に入っています。いたる所に神社、石碑、お堂などがあって歴史的に由緒ある地域でもあることが窺えます。当初は、高知で釣りを趣味にしていた時期があったことから、右方向が多かったのですが、最近は左方向が多くなりました。丘陵地には2つのゴルフ場もあります。聖カタリナ女子高等学校セミナーハウス後方の丘陵地にある奥道後C.Cには往復1時間30分でした。もうひとつのサンセットヒルズC.Cの往復は大変でした。急なアップ・ダウンが続く道を行き、クラブハウスに着いた時は文字通りサンセット。帰りは歩くスピードを上げ、下り坂は走ってみました。すっかり暗くなったなかに、遠くに明るく輝く聖マルチンの家の十字架を見つけた時はほっとしたことでした。往復2時間30分かかりました。

この3ヶ月余り、頭の中にもやもやした状態のものが存在しています。左方向が多くなったのも無意識の意識からでしょう。「ほどほどの幸」というフレーズが関係しているの



です。1990年代から、わが国の生涯スポーツ政策の中心に総合型地域スポーツクラブの全国展開が位置づけられるようになりました。おおむね中学校区に一つのクラブという考え方から、人口が比較的多い地域を対象としていると考えられます。高知県の仁淀川町池川地域は高齢化率50%超の中山間地域ですが、10年前に「清流クラブ池川」を設立し活動を続けています。私が松山市と高知市を行き来することになり、中山間地域のクラブに関心があったこともあり、クラブのゼネラルマネジャーのWさんとこのクラブについて共同研究をすることになりました。同僚のH氏にも参画してもらい、9月下旬に1泊2日の現地調査に行きました。1日目午後、役場で追加資料を収集。夕方、宿泊する民宿に関係者に集まってもらっての聞き取り調査を約1時間30分。そのあとの宴会まで準備してくれていて、地域のこと、クラブのこと、聖カタリナ大学のこと…大いに交流ができました。若いH氏は地元の人からとても好感をもたれ、珍しく酔いつぶれ状態に。

2日目、清流のせせらぎを聞きながらの朝食。早朝の川では、地元の人たちが潜ったり、網を使ったりして鮎獲り。新鮮な空気・景色・食事でH氏も私も元気回復。小学校の運動会を見学時、Wさんが、長女が聖カタリナ女子高校に在学しているという保護者を紹介してくれて、高校のこと、大学のことなどしばらく懇談。清流クラブは2つの形態の事業を行っています。学校等の施設に会員が集まって各種目のスポーツを行う事業と、社会福祉協議会との共催で行う「高齢者運動教室」です。14地区で実施されたこの教室から4つの自主的なサークルができたそうですが、しばらくは続いたものの現在は休止状態とのこと。



4つのサークルのうちの2つのサークルのリーダーだったAさん(86歳、独居)とBさん(85歳、独居)に各1時間30分のインタビューをさせてもらいました。丁寧に対応してくれた、タイプは違う2人ですが、ある種の見えない強さを感じました。この強さはどこからきているのでしょうか?手掛かりの一つは共に語られた地域(自然、文化、社会)への愛着、そして「ほどほどの幸じゃ!」地域への愛着を育み、「ほどほどの幸」づくりに繋がるスポーツクラブとは?暫くもやもやが続くようです。

今回の調査では綿密な準備をし、中山間地域におけるスポーツクラブやスポーツの機能の研究をさらに進めたいと考えています。多様な文化・社会と結びつくスポーツの視点を持ちながら、それと地域の人たちとの交流も大切にしたいと思っています。



人間健康福祉学部
森岡 陽介ゼミ

Q1：ゼミのテーマを教えてください。

森岡ゼミのテーマは、一応狭い範囲では「感情心理学」ということになります。基本的には、ヒトの感情を扱い、それに関連するテーマで卒業研究論文を書くことを前提としています。とはいえ、テーマが「感情」ですから、ヒトを対象とした心理学的な研究であれば大体はテーマとして成立します。そういう意味では「心理学に関連することであれば何でも。」ということになります。私自身も感情心理学をベースとして、感情の神経基盤について研究してきました。その過程で、脳波やMRI装置、心電図等の生理反応を扱ってきましたし、また実験課題を作成するために認知心理学や社会心理学の手法も取り入れてきました。つまり、私自身、決まった専門領域を持っているわけではないのです。ですから、学生の皆さんにも、折角苦労して卒論を書くわけですから、なるべく自分の興味があるテーマで研究して欲しいと思っています。実際、学生たちの研究テーマも多様で、たとえば今年度の4回生では、「第一印象におよぼす髪の色と長さについて」、「外見の異なる組み合わせのカップルがお互いのどこに惹かれているのか」、「居心地の良さを感じる相手の特徴は何か」、について調べています。3回生も音楽、孤独感、劣等感、表情など様々なテーマで研究する予定です。

Q2：ゼミの特徴・スタイルを教えてください。

基本的に学生自身が興味を持てるテーマを研究することを重要視していますので、ゼミのスタイルとしては、前期ではまず論文に慣れることとその内容把握、そしてそれをパワーポイントにまとめる要約力を身につけるために、各回1人か2人ずつ自分で選んだ論文を発表する形式を採っています。そして、その発表について他の学生や私から質問をし、答えるという形式です。後期では卒論へ向けて本格的にテーマを決定するために、実験計画を立て、各回1人ずつ目的と方法の具体的な発表をします。そして、その内容について学生や私から質問をしたり、アドバイスをしてより良い実験計画を作成していきます。そのため、特徴としては雑談交じりの和気あいあいとした雰囲気があります。4回生になるとさらに図々しさが加わって、私の研究室に入り浸って、ご飯やおやつを食べながら卒論指導を受けています。

森岡陽介ゼミはこんなゼミ

人間社会学科3年 加藤 寛人

感情心理学を主なテーマとしたゼミです。基本的に自主的に論文を読み、卒業論文のテーマを決めることとなります。決めたテーマをゼミで発表し、森岡先生やゼミの皆さんからアドバイスを受けることができます。論文の読み方から始まり、各自の卒業論文のテーマへと移ります。なので、段階的に卒業論文作成へ取り掛かることができます。

人間社会学科3年 山邊 友紀子

森岡ゼミでは、感情心理学・認知心理学の分野を学ぶことができます。主な活動は、興味のある心理学の論文を読み、その内容をわかりやすくまとめて発表することです。また、ゼミ生で意見を交わしたり、先生からアドバイスをもらえるので、より知識や経験を深めて自分を向上させることができます。それだけでなく、卒業論文の計画の立て方や進め方の助言も貰えるので、何かと不安な卒業論文にも安心して取り組むことができます。

ハンドボール部



ハンドボール部は、昨年同好会から部に昇格しました。現在、14名の部員が所属しており、週に2～3日程度、本学記念体育館で活動しています。また、中四国学生ハンドボールリーグにも所属し、リーグ戦で新旋風を巻き起こせるよう練習に取り組んでいます。

私たちは「ハンドボールを通して心身を練磨し部員相互の団結、親睦により学生生活を充実する」ことを部の目的に掲げています。そのため、やらされる活動・練習ではなく、部員全員で協力するとともに、自主性と創意工夫の精神を大切に、「考える」ハンドボールの実践を目指しています。

今日の部になるまでには様々な困難がありました。人数が足りずに練習が出来ない状況や、廃部の危機に直面したこともあります。私自身も2回生でキャプテンを任された時、正直自信がなく、「この部を廃部にだけはさせない！」という思いだけでやっていました。しかし、そんな時大きな転機を迎えました。それは2014年に新入生がたくさん入部してくれたことです。新入生の中には高校時代に県選抜を経験した学生もおり、練習もより密度の濃い練習が可能となりました。そして、今までで

は考えられなかった愛大医学部、松山城南高校、東温高校、新田高校などとの練習試合も定期的におこなえるようになりました。また、入部した1回生の多くはハンドボール初心者ですが、彼らがハンドボール部に入りたいなと思ってくれたこともすごく嬉しかったです。そして、現在では大学から初めてハンドボールを始めた学生も、チームにとって不可欠な戦力として活躍するなど、部員の成長を実感する毎日です。まだまだ、決して強くないチームかもしれませんが、みんなで切磋琢磨するとともに、ハンドボールの楽しさを追及していきたいと思っています。

ハンドボールを通じて出逢えた仲間や、顧問の先生の支えのおかげでハンドボール部は部に昇格することができました。あの時は自信が持てなかったですが、今はこの部のキャプテンになれたことに自信を持って最高の仲間や先生方に出逢えたことに「感謝」しながら今後の活動も頑張っていきたいです。

2015年はチーム一丸となって、しびれるような試合を実現するとともに、リーグ戦では1つでも多く試合に勝って先生たちに恩返ししたいと思います。

部長 社会福祉学科3年 山口 良平

経験し、諦めないことが自分の望む道へ繋がる。



Q：その職場に就職を決めた理由

私は、堀江病院のグループホームでアルバイトをさせて頂いていました。その中で精神障害者の方と関わり、笑顔で楽しそうに生活されている姿がとても印象的でした。大学の講義などで精神障害者の方が生活しにくい環境にあることなどを知り、自分が将来、精神障害者の方が笑顔で暮らしていくことができるように何かができることはないかと考えるようになりました。その中で、堀江病院の環境は私が目指しているものを作り出していると感じました。堀江病院で精神障害者の方が笑顔で暮らしていくことができるよう自分にできることをしたいと強く思い、志望しました。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

私は自分の中でこういうところで働きたいとイメージしているものがありました。しかし、就職活動でいろいろな情報を得ていく中で、自分が本当にしたいことは何なのか分からなくなったこともありました。でも、友達や就職課の方が真剣に話を聞いてくれ一緒に悩んでくれたおかげで自分のしたいことを明確にしていくことができました。就職活動中はほぼ毎日就職課へ行き、新しい求人の情報や履歴書のことなどを教えて頂きました。行きたい就職先があれば、すぐに行動できるよう心掛けていました。

Q：後輩たちへのメッセージ

自分の望む就職先を見つけるためにも、自分のやりたいこと・興味のあることなどを考え、経験していくことが大切になってくるのではないかと思います。ボランティアをしたり見学に行ったり、実際に経験することで分かることが多くありました。色々なことを経験することで自分のやりたいことが見つかるのではないのでしょうか。それでも、なかなか自分が行きたいところが見つからなかったり、本当にここでいいのか悩んだりもすると思います。そんな時には、誰かに相談することも大切だと思います。友達や先生、助けてくれる方は必ずいます。助けてもらいながら一歩ずつ進んでいってください。皆さんの就職活動が上手くいきますよう応援しております。

田中 里枝

社会福祉学科 社会福祉専攻

内定先：医療法人 佑心会 堀江病院

面接時に重要なのは自分のことを相手に分かりやすく伝えること！

Q：その職場に就職を決めた理由

私がこの企業と出会ったのは、7月に大学で行われた企業説明会に参加した時です。その時は、県外ということもあり就職先としてはあまり意識していませんでした。その後、9月に大学の教授の勧めでその企業の施設見学に行きました。実際に現場の様子を自分の目で見てみて、企業の掲げる経営理念である「忠恕」の考えを肌で感じる事ができ、また自分の福祉に対する考えと合致しており、就職したいと思いを決めました。私は、「福祉」とは人が幸せになるためのサポートをすることだと思っています。社会人になっても大学4年間で学んだことを忘れず、頑張っていきたいです。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

福祉の就職活動については一般企業を志望する人達よりも遅いため、「自分も早く就活しないと！」という焦りを生じてしまうことがありました。また、自分の場合は実習を終えてからだったので、履歴書や、必要書類を揃えるといった本格的なことを始めたのは9月の中旬くらいからです。

私が就職活動の時に特に意識したことは、面接時の面接官の質問に対する答え方についてです。緊張しては、自分の言いたいことを相手に伝えることができないと思い、緊張しないようリラックスして面接に臨みました。また、自分の長所をアピールするためにも質問に対してスムーズに答えることができるように、ある程度準備しておくことが重要です。

Q：後輩たちへのメッセージ

就活の時に大切なことは大きく分けて2つあります。一つは「周りに流されず、自分のペースを進めていくこと」、もう一つは、「自信を持つこと」です。これら2つのことを意識して就職活動に臨んでほしいと思います。

また、就職先を決める時、事前にその企業がどんなところなのかを調べておくことがポイントになります。一番良いのはその企業の説明会に参加することです。実際にその企業を見学できればなお良いと思います。自分に合ったところに就職ができるようあせらずに、じっくりと見定めて決めていってください。



見玉 翔

社会福祉学科 介護福祉専攻

内定先：株式会社両備ヘルシーケア

とりあえず、やってみよう。

Q：その職場に就職を決めた理由

知人がその会社に勤めていて、しっかりとした教育制度にキレイなオフィスで快適に仕事ができるという話を聞いていて、以前から大変興味を持っていました。募集内容を見て、会社説明会に参加してみたところ、とにかく素敵なオフィスに感動しました。3カ月の十分な研修期間もあり、また、働いている人の雰囲気もみなさんとても素敵で、この会社で働きたい！と強く思ったことがきっかけで就職を決めました。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

私が一番苦労したのは、履歴書作成です。学生時代にアルバイトばかりしていて、学校行事などもあまり参加していなかったため、書くネタが少なく、かなり頭を抱えました。しかし就職課の方たちが親身になって一緒に考えてくださり、履歴書を完成することができました。工夫というほどではありませんが、面接では、聞く、話すことが大切になってくるので、社会人の方と話す機会を積極的に作るようにしていました。そして面接では、緊張をしないようにとにかくリラックスして臨むようにしました。形式にとらわれず、今日は初めて会う人と会話をするだけ、と思うことで、あまり身構えることなく、ありのままの自分を知ってもらえることができたのではないかと考えています。

Q：後輩たちへのメッセージ

就職活動が始まったばかりの頃は、まだ自分が何をしたいのか、何が好きなのか全くわからない状態でした。そんな人も多いのではないかと思います。とにかく説明会に参加することが一番の近道のように思います。何社か説明会に参加しているうちに、したいことがなかったとしても、この仕事は自分に向いているかもしれない、こんな会社で働けたら…と思う会社は必ず出てくると思います。また、視野に入れてなかった業種でも話を聞くうちに興味が湧くなんてことも多々あります。素敵な会社は沢山あるので、憂鬱な気分にならず、色々な会社へ足を運んで、楽しんでください！



中矢 沙織

健康福祉マネジメント学科 福祉マネジメント専攻

内定先：富士火災海上保険株式会社

焦らずゆっくりと

Q：その職場に就職を決めた理由

大学入学時から憧れを持っていた職種であったからです。ですが、最初は他の企業から内定をいただいております。入社するつもりでした。トレーナーという職種は県内にはあまり求人はなく諦めていましたが、今の就職先の求人を見つけ迷わず行こうと思いました。説明会に行くとき自分を必要としていて、大学で学んだことや健康運動実践指導者という資格を活かせる職場であると思いました。就職先は国から委託されたプロジェクトをしており、そのプロジェクトに自分も携わりたいと興味を持ちました。「医療を愛媛という地方から一緒に発信していこう！」と院長から言われその言葉が心に残り今でも覚えています。期待を裏切らず自分なりに頑張ろうと思いました。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

大変だったことは面接の時にいかに平常心でいられるかどうかということです。緊張すると自分の言いたい言葉が出てきません。履歴書を丸覚えするのではなく、質問されたことに臨機応変に受け答えすることを心がけました。就職課の方や友達に協力してもらいながら、何度も面接練習をしました。

また、言葉遣いも大変でした。尊敬語、謙譲語、丁寧語を使い分けることは一番苦労しました。いかに自分が適当な言葉遣いをしていたか見つめ直すいきさつかけになりました。自分が答えた一言で合否が決まると思うと言葉遣いは大事だと思いました。

Q：後輩たちへのメッセージ

一つだけではなく、いろいろな選択肢を持つておいた方が良いでしょう。一つだけに絞らない方が気持ちに余裕ができます。しかし、欲を出すことで中途半端になるので自分がしたいことや興味があるところを同時に進めるべきです。

また、就職活動で素の自分をアピールしてください。履歴書、面接で自分を良く見せたいと思いますが、嘘はばれます。また、嘘の自分をアピールすることはこれからの自分を苦しめます。ありのままの自分で就職活動を進めていってください。最後に、就職活動は大変ですが「顔晴って」ください。頑張っている人に頑張れとは言いたくありませんが、しんどいときこそ晴れやかな顔で前向きに「顔晴って」ください。



村井 一平

健康福祉マネジメント学科 健康スポーツマネジメント専攻

内定先：医療法人TMC 富永ペインクリニック

経験し、諦めないことが自分の望む道へ繋がる。

Q：その職場に就職を決めた理由

私は就職活動中に営業職に就くか、事務職に就くか悩んでいました。いろいろな企業に説明を聞きに行ったりしているうちに、自分が在学中に部活動のマネージャーとして学んできた会計の仕事や書類作成の仕事の経験を活かせるのは事務職だと考えました。多くの事務職の中で愛媛信用金庫を就職先に選んだのは、銀行の仕事に興味があったことと、企業名にも入っている「信用」という言葉に惹かれたからです。私自身もお客様から「信用」される銀行員になり、部活動の生活で学んできたことを十分に発揮したいと思い志望しました。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

苦労したことは言葉遣いです。自分が普段使っていた言葉遣いが面接のときについていけなくなってしまうように就職課の方に協力してもらい練習したり、友達同士で敬語を調べたりして気を付けていました。

また、面接のときに企業側から「会社について何か知っていることは？」と聞かれるので事前に調べて覚えていくことで企業の方から感心してもらったりと自分を知ってもらえるチャンスになりました。だから、試験を受ける前は受ける企業の情報をたくさん調べておけば調べておくほどプラスだと思います！

Q：後輩たちへのメッセージ

就職活動で大事なものは、自分のやりたいことや、どの職種に就きたいかをしっかり理解することだと思います。理解するためにはなるべくたくさんの企業の説明会に参加したり、先輩の話を聞いたりすることで、また、就職セミナーなどで情報を沢山得ることで、自分がどういう仕事に向いているのかが見えてくると思います。あとは周りが決まっていっているからといって焦って就職先を決めるのではなく、落ち着いて疲れた時は休憩をはさみながら自分に合ったいい企業に出会えるように頑張ってください。



石川 知里

人間社会学科

内定先：愛媛信用金庫

Q：その職場に就職を決めた理由

私が就職を希望した幼稚園は、私が卒園し実習をさせていただいた園でもあり、自宅からも通勤しやすい場所にあります。就職について考えた際、教育的な保育に魅力を感じ幼稚園を希望しました。また、実習をさせていただいたときの印象が強く、子どもたちがのびのびと遊んでいる姿や先生方の子どもへの声かけや細かい配慮に感動しました。特に、先生方同士で保育について話し合い、真剣に向き合っている姿に憧れました。子どもや保護者にとって、最も良いサポートができるよう工夫しておられ「私もこの園で素敵な保育者になれるよう頑張っておきたい」と思いました。

Q：就職活動中の苦労したこと・工夫したこと

私が一番苦労したことは履歴書作成です。履歴書の中には、自己PRや志望動機以外にも記入する欄があり、自分のことを見つめ直して自己アピールすることの難しさを感じました。就職課の方に、アドバイスをいただいて何度も書き直し、受験する園へ自分の意欲が伝わるように工夫しました。

また、ほとんどの幼稚園では実技試験が行われます。試験内容が面接や作文の他にもピアノや絵本の読み聞かせなど各園によって様々です。就職を希望している園を受験した先輩方が残してくださった記録を参考にして準備をして、試験で実力を発揮できるよう取り組みました。

Q：後輩たちへのメッセージ

保育の就職試験は重複して受験することが出来ず、一度内定をいただくとその園に勤めることとなります。なので、興味のある園を詳しく調べ自分が働きたいと思えるような職場を見つけてほしいです。そのためには実際に見学をさせていただき、園の雰囲気や特徴を学ぶのが一番だと思います。

受験する園を決定してからは、履歴書作成や試験対策など、早めに行動すると良いと思います。準備をするのにやり過ぎることはなく、念入りにしたからこそ本番への自信につながると思います。試験当日は「自分はここで働きたい」という意欲をもって自分の力を発揮してください。笑顔は最大の武器です。試験でも素敵な笑顔を忘れず、リラックスして頑張ってください。



野元 瑠菜

保育学科

内定先：学校法人 挿桃学園

ソーシャルワーク実習プログラミングワークブック ～実習先-養成校-実習生が協働するメリット～

関西学院大学実践教育研究会 編
編者代表 高杉 公人 (聖カタリナ大学講師 全編編集及び執筆担当部分: 第3章、第4章、第6章)
:(株)みらい、2014年



本書は、高杉が研究代表として、関西学院大学の社会福祉士実習に関わる教員と研究グループを立ち上げて行ってきた「実習プログラミング研究」の成果物です。本研究グループは、2008年度から2010年度にかけて、模範的な実習を行っている実習先指導者と領域別(児童・母子、高齢者、障害児・者、社協、病院)研究グループの立ち上げを行い、領域別実習モデルプログラム開発を実施してきました。更に、その実習プログラムに従って実習先指導者-養成校教員-実習生の三者がいかに関係・協働したのか、その「プロセス」の明確化を図りました。その研究結果を、教育教材として使用しやすい「ワークブック」形式にまとめ上げたのが本書の特徴です。

2007年度の社会福祉士及び介護福祉士制度改正以降、社会福祉士実習においては、実習生が実践力を養う体験を得られるように、実習先指導者-養成校教員-実習生の三者が協働して実習目標を立て、目標に沿った内容をプログラム化する「実習プログラミング」が義務付けられました。しかしながら、未だすべての実習先施設・機関で適切に実習プログラミングが行われているとは言い難い状況です。この本は、このような現状を打破し、三者協働での実習プログラム作りが推進されるように、三者すべてが使える教材や演習ワークを多く盛り込んでいます。本書は、社会福祉士実習に関わるすべての人に、自信を持ってお勧め致します。

クリスマス募金のご報告～世界の子どもたちのために～

クリスマス募金等で集まった募金総額90,457円(クリスマス募金38,171円・大学祭募金52,286円)は、過酷な環境にある子どもたちの援助に使われるよう、日本国際飢餓対策機構・日本ユニセフ協会・児童福祉献金・カリタスジャパンに送金いたしました。

募金にご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

法学・憲法への招待

山本 克司 (聖カタリナ大学教授 執筆担当部分: 第14章「信教の自由」・第18章「生存権」)
:敬文堂、2014年



『法学・憲法への招待』は、大学における法学と憲法学の学習に必要な32の重要項目について書かれた「法学・憲法学」の専門書です。編者は、早稲田大学社会科学部後藤光男教授です。私を含む21名の執筆により、2014年10月に敬文堂より出版されました(A5判382頁)。

私は、第14章「信教の自由」と第18章「生存権」を執筆しています。信教の自由については信教の自由の保障の趣旨と沿革、内容と限界、政教分離原則について記述しました。また、生存権については、人権思想史の観点から意義と歴史、法的性格と内容、福祉政策の理念と生活保護制度の基本原則、生存権にかかわる政策と訴訟問題、外国人の生存権保障、環境権と生存権について記述しています。

憲法は、国家の最高法規であり、国家経営の基本法です。今、私たちの社会は、自由の保障や安全保障において様々な問題に直面しています。この問題に直接かかわる法が「憲法」なのです。本書は、日本社会を支える立憲主義をしっかりと理解して欲しいとの願いで書かれています。また、私個人としては、『個人の尊厳』を実現する手段としての「基本的人権」を理論的にしっかりと理解して欲しいとの願いから執筆しています。



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.27 No.2

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp